



繪本豊臣勲功記

九編
五

遠13
22091
85



八通信特
2209
卷 85

繪本豐臣勲功記九編卷之五

目錄

貴田統治與三十九傑南觥

附本村得勝

貴田統治成加藤清正臣

附肥後幾向

繪本豐臣勲功記九編卷之五

一



蒲生飛彈守頌攻高石城

附清正施計

加藤清正施計陷岩石城

附城將我死

繪本豊臣熱田記九編卷之五

櫻澤堂山 剛補

貴田統治與三十九傑角触 属木村得勝

蓋角触の紀原といふ建清雷神建清名方神力競と。
奮子紀みえ由まゝ人皇いりてハ十一代垂仁天皇
の七年七月高麻の躰速野見宿禰の力競あり。次でハ紀
名虎伴良雄の角力あり。投緊捨錠変化ありて二十四の
あるの裏表と工丈セーハ野見宿禰の切力あり。
角力ハ今のお撲とハ異なり。昔は角力ハ死といはれ。
足利と初めは速と朝延より召さる。角力ハ死といはれ。
稀と角力ハ速と朝延より召さる。角力ハ死といはれ。
志と角力ハ速と朝延より召さる。角力ハ死といはれ。
らのお撲の死生といてあはれ。或るふと唯勝負と周る禁の



豊臣記九編卷之五

りもあつて念中美ふハ六國の時おと造り。漢武おのん
 て觀樂を始て居賜ると云ハ僕の武事一聯句ハハカ
 と競ふ本君子の徳ふあつて雄と争ふてひとえみ小人
 の強と逞しふさふと強るといえども。此ハ結ぶ角舐場
 ハ。戲ともて本とせむ良會のよく樹と撰む忠臣の君と
 有るの理と考とさるるもの。何ぞ君子の徳ふあつ
 む小人の強のそと侮らんや。初有るやなどみそ居殿下
 ふハ相撲の場と開成しゆんと。立花家ハ命せらる。その
 准儀といそがせ玉ふ此响日向口ハ發向さまふ大和太
 納言秀長卿と首まのらせ。後侯のうらぐ。殿下の巻糸
 小倉み若沖と所より戰鬥く。み歴名と置おのもく。秀

長卿ハ附跟て小倉城ハ東集し。殿下ハ場しとてまつり。
 後來徑るさる所。戦場の始末と言伏ふ。後日の指揮
 と候後。豊國向ひとつく。み所唱され。後將の戦切と所
 賞與せらる。這上ハ返々。攝方一般ハ進伐をさる。然切
 急ぐ軍ふもあつて。益み一場の既遊あり。軍旗の疲勞と
 慰むべしとて。美田孫兵衛がな。公撰とのお撰のおとと
 作所らる。翌日ハ徳家の勇士と集腹勝くら家ハ孫兵
 衛が。侍をべき。盟約をさる。各勇居と撰むべしと。清熟
 の命。羽ハ強將連ふのゆ。あつて。悦。説。奉言して。高日
 と待。返。响。み。當りて。西。花。家。の。人。く。ハ。人。丈。と。策。劬。相。撲
 の。場。と。右。造。左。造。と。四。面。の。假。庇。渡。座。の。幕。記。汝。囊。錦。楯。の

故実ら。元龜元年。内府信長より。取始。うら力弓の安
所行司が幣。ふい。うらまで。残規。刻なく。具足せしめ。這初
終ともて言状を。殿下。殆ど。悦ましく。豫て。諸侯の家士
のうち。みて。強猛の勇士と。撰まる。此。不。擇。出。を。豪傑。ハ。畿
戰場の。辛苦。と。經。て。天下。ハ。英名。と。表。せ。倫。ふ。さ。バ。強。小
現。ハ。日本。開。辟。以。來。い。ま。ご。考。て。あり。とも。覺。へ。ぬ。播。磨。合
る。と。謂。つ。べし。時。ハ。殿。下。へ。以。披。露。ま。し。と。お。撲。み。競。合
個。く。ハ

- 大和 大納言 秀長 卿の 家居
- 茶田 利長の 家居
- 蒲生 氏卿の 家居
- 天野 源左衛門
- 山崎 元吉 清
- 三宅 長内

- 毛利 輝元の 家居
- 右川 元長の 家居
- 小早川 隆景の 家居
- 福崎 正則の 家居
- 加茂 清正の 家居
- 同 嘉明の 家居
- 池田 輝政の 家居
- 黒田 孝富の 家居
- 細川 忠興の 家居
- 峰須 正勝の 家居
- 長号 我如元親の 家居
- 木村 亦造
- 伴 園右衛門
- 戸 相守左衛門
- 母里 太右衛門
- 小笠原 信元
- 樋口 内膳助
- 中内 源右衛門
- 牧 赤伯耆守
- 生石 中務
- 井上 元房 右衛門
- 可児 左衛門

堀尾 右晴の家臣

浮田 秀家の家臣

筒井 定次の家臣

立花 宗茂の家臣

別所 貞吉の家臣

稲佐 助之進

賈德 殿助

十時 傳右衛門

その外佐家の勇士とえうんで都合三十七人あり。是皆
前日不定並じて強くえ割符を賜る此平ふらとバ一人
くりとも立合おと叶ふまじと堅く作出されくり。斯て
其日ふありらとバ核敷の正面ふ上檀とらまえ。おとふ
殿下の所座を設け左の方ふハ大和太納言秀長卿右の
方ふハ近江中納言秀次卿各忌座まじく。とらえ。庭
上ふハ櫓出さじとら三十七人の勇力士巍然として聳

肩をりあり。凜然として握拳する有り。よ味儀式あり。往古
と幕の内外み役る今世のハ幕の内みま。いぶ物おと。ハ
幕の外みま。今世上ハ救の力者とま。くの内。いふ。ハ
皆幕の内みま。勝おま。ま。が。ハ。又。ハ。右。の。ハ。核敷
ふハ。茶田。毛利。細川。黒田。浮田。蒲生。と首として。法。侯。陪。臣
ふい。と。る。まで。救。子の。勇士。群。衆。を。強。み。勝。が。ま。し。き。お。撲
ふ。あ。ん。然。ち。ど。ふ。笑。田。孫。名。清。統。治。ハ。獨。身。一。箇。み。して。西
の方。ふ。座。り。ら。と。は。も。也。も。怖。め。る。気。色。な。く。笑。と。啣。て。勒
え。と。る。相。言。ふ。日。本。み。あ。ら。び。な。き。英。雄。と。こ。そ。見。み。ら。せ。
茲。み。一。條。の。櫓。鑿。り。あり。方。僅。競。合。を。る。相。撲。の。勝。敗。そ。と
見。徹。む。る。乃。司。の。役。ぞ。大。持。ふ。る。乃。司。の。鞆。み。當。ふ。ら。秀。矢

殿下の御
前まへ於おけ
貴田孫兵衛
三十九勇士
と角觥すゐひとる



連立巳九編卷之五

五

豐臣記九編卷之五



ことのあるもやまゝん。誰とり役てん孰とり指さんと。
 志なく西評刺おそしるるが。十時傳右清のこそ此技
 藝不切者あるよし。殿下ことと听唱を頼小立花宗茂小
 令せらして十時と竹目の役とて。茲小おひて相撲
 場の内外全く傾足しりまは。いでささむとて。預番の湯
 樓鼓と撰せしり。頼て圍もて。裏紐の次取と定めらるるが。
 第一番小八田中名孫女彌の居。稀留三弟名清あり。二を
 こそ勝得て切小せめと。うゝ。雷と吞て侍布ど小立合の
 役十時傳右清の分幣採て。立竊を東西初番の力士と呼
 ぶ。稀留のつら孫名清と占て。人まんと。繞んで進ハ。其田
 統治も後く然と。歩出する。風東ハ。卷關白より。場りする

搦布の素袍小袴ハ。若々む。水火機掛する。太刀拵提て。小
 服小撥込役の搦座小座と。結ハ。三弟名清も。同トく座し。
 殿下の假庇小朝ふて。拜跪し。両雄各一く。起参り。衣袂と
 解て。搦座の上小おき。其上小太刀を横し。へのし。石結小
 一。後禱單名小あり。土俵のうち小跳投中央へ。歩進
 おもてと見合し。一揖して。中腰小突這りまは。行司が分
 幣。今時ハ。命ち。おつ採て。是も。殿下小低頭あり。どひよ
 う。場へ。歩投り。兩人のあまひ。小立。其田稀留が。息乃と。朗
 然として。傳ふしり。上下小。見替ハ。唱と。志づめて
 瞬も。せ。其田孫名清。懐念と。今。紀。對ふ。的人ハ。三十
 余人あり。初發より。いとづら。小。獲根と。費し。な。べ。心。神。守

後不俛疲且て終始の志烈と全ふ志ぐと。心力と勞盡
 せ。術ともて捷人不如と思念し。樂んと績記稱留と。今
 小刻とて一箇息し。腰と離て尾振まれば。先よき合風ぞ
 と傳古傳門が。指ぐる幣と還くが合國ふ阿と声發て与
 合より。その始より三弟各清へ。口をあそとわりふ氣發
 あり。心焦燥て跳菟ると二度三度改合を。稱留遊
 で進むところと。統治執流と身と避去右統舒して三弟
 各清が。首筋下度強若くへ。稱留此もたまらばあそ言俯
 伏し僵とく。二弟へ京極宮次の老當依く九弟各清交
 代て競合しが。唯一改ふもねとふさと。面報らめてを還
 みる。第三弟小坂尾の家臣別所貞之進と。つり小角能

の心入あまの虚と窺ふて下まふくむ。然ども神力不思
 儀の統治所研ハ臂力のある信ふ。推ども引ども賽せむ。
 美田がむくろハ宛小大樹の生おぐる如く。惚ともせざ
 且ハ貞之進おちひ小度早々ふぞ方僅ハヤと一と孫
 各清が。阿と声りけて左とひき。菟投ふこそ輾一と。是
 口邊小蒲生家の三宅森内又邊ハ池田家の凡相才尤兼
 之。六邊ハ細川家の小笠原休兼七邊ハ淳田家の稱留助
 之。進八邊ハ小早川の井上又弟各清九邊ハ右川家の生
 石中務おまの勇士と報として。北口邊の競合小孫各
 清とこも休息せむ。強くも懸く捷得より。こそはがとめ
 小登殿下と首まわらせ。徳慶の門くおちひ小孫鷲材膽

日本書紀卷之六

捨る如く覺えて憾不^き笑田が^ち勢力の^を量^ハ其仙の業と
 おもおへり。と。微^ろ撥^へしてぞ感^ん賞^し一^玉ふ然^らむとみ^ハ不^ス
 案の競合ハ大和^と大納言^ハ秀長^ハ卿の家^ハ居^ル。天^の聖^ハ源^ハ左^ハ兼^ハ
 つとぞ^ま合^ス。天^の聖^ハ源^ハ左^ハ兼^ハの^ハ覺^ル期^ハいとく^ハ深^キ
 勇^ハ士^ハありとて。交^ハ友^ハの^ハ倫^ハ軍^ハを^ハト^リり^ハ器^ハ合^テ借^コ口^ハ不^ス源^ハ
 左^ハ兼^ハの^ハ孫^ハ名^ハ清^ハみ^ハ預^ハ員^ハこと^ハの^ハあり^もや^ハま^まと^ハ疾^ハ角^ハ与^ハ
 やと^ハ後^ハ在^リ。自^ハ己^ハも^ハま^まと^ハ心^ハ中^ハ不^ス初^ハ案^ハ指^ハ留^ハが^ハ競^ハ合^ハり^ハ。
 心^ハと^ハ入^レて^ハ見^ハ督^ハ若^ハり^ハら^ハが^ハ預^ハめ^ハ統^ハ治^ハが^ハ頭^ハ被^ハ撥^ハ捨^ハる^ハ繫^ハ足^ハ
 の^ハ骨^ハ法^ハを^ハ察^ハ観^ハ今^ハ王^ハが^ハ案^ハ回^ハみ^ハ何^ハり^ハら^ハみ^ハぞ^ハ嘘^ハ吹^ハと^ハ奏^ハ
 して^ハ与^ハ合^ハり^ハ。矮^ハ仰^ハら^ハぬ^ハ兩^ハ士^ハが^ハ繩^ハの^ハ材^ハ俚^ハ語^ハ不^ス所^ハある^ハ疾^ハ
 海^ハの^ハ記^ハ者^ハち^ハ門^ハの^ハ二^ハ王^ハ金^ハ剛^ハ神^ハ毎^ハんで^ハ角^ハ能^ハさ^ハると^ハい^ハふ^ハ。

是^ハみ^ハ恰^ハも^ハ似^ハ通^ハふ^ハ。張^ハ將^ハハ^ハ送^ハ不^ス拳^ハと^ハ握^ハり^ハ。聲^ハ張^ハ逼^ハて^ハ露^ハ
 身^ハる^ハあ^ハり^ハ不^スも^ハ秀^ハ長^ハの^ハハ^ハい^ハり^ハ不^スも^ハして^ハ源^ハ左^ハ兼^ハの^ハ捷^ハ幣^ハ
 扱^ハさせ^ハ。笑^ハ田^ハと^ハ吾^ハも^ハ不^ス獲^ハせん^ハむと^ハ意^ハも^ハ不^ス覺^ハ不^ス目^ハる^ハ剛^ハむ^ハ。
 勝負^ハの^ハり^ハ不^スと^ハ秀^ハ長^ハの^ハハ^ハい^ハり^ハ不^スも^ハして^ハ源^ハ左^ハ兼^ハの^ハ捷^ハ幣^ハ
 くも^ハ天^ハ聖^ハが^ハ工^ハ丈^ハと^ハ悟^ハ察^ハ足^ハ踏^ハ踏^ハめ^ハて^ハう^ハご^ハう^ハざ^ハは^ハ源^ハ左^ハ兼^ハ
 兼^ハの^ハハ^ハい^ハり^ハ不^スも^ハして^ハ源^ハ左^ハ兼^ハの^ハ捷^ハ幣^ハ
 まで^ハ突^ハ踏^ハさ^ハる^ハ。ま^ハを^ハや^ハ天^ハ聖^ハが^ハ捷^ハし^ハる^ハと^ハ秀^ハ長^ハの^ハ捷^ハ幣^ハ
 せむ^ハ孫^ハ名^ハ清^ハ統^ハ治^ハ身^ハと^ハ相^ハら^ハせて^ハ利^ハ足^ハと^ハ扱^ハ源^ハ左^ハ兼^ハの^ハ捷^ハ幣^ハ
 の^ハ脛^ハと^ハち^ハう^ハら^ハ不^ス任^ハせて^ハ趨^ハ度^ハ跪^ハる^ハ。跪^ハら^ハして^ハ天^ハ野^ハの^ハ渾^ハ身^ハ
 の^ハ勢^ハ力^ハ只^ハ腕^ハ柄^ハの^ハと^ハあり^ハて^ハ笑^ハ田^ハと^ハ只^ハ後^ハ改^ハ出^ハさんと^ハ震^ハ

豊臣記九編卷之五

ふ心こころに熱肝とりのかんせとまば足あし隈かた分わ浮うくる虚きよとと跪からまてて吊その
 信まこと自おの己のがで出でのちううろろ不あ刺ささは汝ど囊ひょうのそとへ頭づ傾えん倒たうと
 輓せうごり秀ひで浩あかておをせ一い秀あか長なが々々のあ嘔あうとむりり不あ魂たま脱ぬて
 拳こぶしみち力ちからとあ矢やひひとぬふふ大おほ名な達たつもは法あま勇ゆう士しもお思おもをむ吐は吐はと声
 とあ嗒おげげ褒ほ咩め守し時ときにあ止とざりりり依よ其その次つぎにも利り家けの剛士し
 枚まい森もり伯たか耆き守のりみぞありりり不ふ敵てきの勇士しありりりが自己の
 やを止とてくまんむと真ま鳥と許ごつりせ統ふりて競出でと
 とお同おくく恨うらたで首くびをあげてふ痛みを合あて退入ひりり北きた九く
 番ばんとあ呼あ揚あるる行ぎやう司しが声のあ下くだよりも跳あ出でるるハ茶田ぢ家けの勇
 辰しん山やま崎さき庄しやう名な崎さきあるものありり四よ十じゅう人にん力りきありと算えて角
 觥かう小こ衣えくく四し老らうおまままババ利り長ながみも最さい憑ひんくくおおおおささ息いき逼つむ

までま不ふ睥ひがめてありり速すみくも両りやう雄ゆう与よ合あせ脅力りきのうぎぎり接合あ
 々々るるが庄名な崎さき足あと踏損そねね尻し膝ひざついて足負おささとりり時
 小こ殿でん下くだ通つう鼓この役み令せらと休息きよくの節と櫛せとぬふお
 と孫兵へい衛ゑが今朝あよりも巳み午ごの際退ひも針を一枚まいの水不ふ息いき
 せもせぞ櫛くみ接で競合あせらと破下くだ布ふとく懐あと不
 おおおおささと美田み不ふ補お茶ちやと湯べあどど一い小こ妻さい時とき休きよく憩けいせさせ
 五ごふ従来じやう三さん十じゅう七しち人にんの勇力りき士し有ありりちち此こ不ふいいとりて
 美み田でんの不不ふ既け三さん十じゅう箇こ輸ゆ早はやぬぬ残のこるるハ己づづり七人にんおまままバ
 了さ得と得と長なが殿でん下くだもも昏くらくとして惑問ま志しとまひ呼怖おそしき
 統ちゆう治ちよよ今いま此こ場ば不ふ集あふふとる勇ゆう猛まうの力士しハ日本ほんとる中ちゆう
 ハ擇出とを牽引ひて此外が不ふハありりとも听きえを然しかと孫兵へい衛ゑ

豊臣記の緒巻之五

一個のふ。斯まで捷と占らせし律法侯の耻辱のこた
 らむ。天下の威风も劣るふ似たり。よきなきを思起て。
 今更悔るふ逃方あり。然とて遠征不止るも疎まし目と
 退ふ魯陽の戈不似たりと。意甚ふ困れ玉ひ残在の旗
 執ふ倘や乞贏秀軍のありもやを飲と。一箇くくふ以覽
 むらふ。中内源各清極の内務助龜田大隅可児也造母利
 太名清伴左清つ。木村又造あり。此内ふも左清つ。戈
 獲又造ふといえらへ。下ふも能其別極あると。商るる
 所ふといへ。をさしく清と寧と。ぬひ荐ひ競合通知の
 敵と。撞くと。つさせとぬふ响ふ一箇の大漢子汝囊の正
 央ふ躍投大音声ふ吼て言さく。乃士一番勝負を帰らん

許免させとぬえと。清と寧と。ぬひ荐ひ競合通知の
 あり。ハ驚きあるハ。愕り腫と。決て凜と。親と。ハ。身材六尺
 小形刺りて。渾身赤く。骸骨太く。頬鬚志がく。虎領。不滿眼
 光尖く。鵬睛と。癸を。こ。こ。や。中村式部。が。老當ふ。して。後
 勘名清重。総あり。時ふ。七勇。初と。ひと。し。所有大膽あり
 浜辺重総。殿下。の。免も。慕らむ。情ふ。我軍。さき。が。おとく
 競合との。ぞ。む。そ。ぬ。礼。さ。る。速。其。所。退。け。と。罵。吼。り。勘
 名清重も。賽。き。せ。む。汝。軍。然。の。と。智。め。ま。せ。そ。角。觥。ふ。後
 加ふ。ふ。り。あり。これ。先。定。の。員。ふ。ハ。あ。る。ね。ど。不。贅。の。力。後
 士。ふ。あ。る。べ。ふ。ハ。懐。を。ざ。り。き。臂。力。の。登。ハ。外。ま。は。中。ま。れ
 備。ふ。後。加。と。帰。ふ。あり。と。言。せ。も。果。む。健。志。右。清。つ。角。觥。の

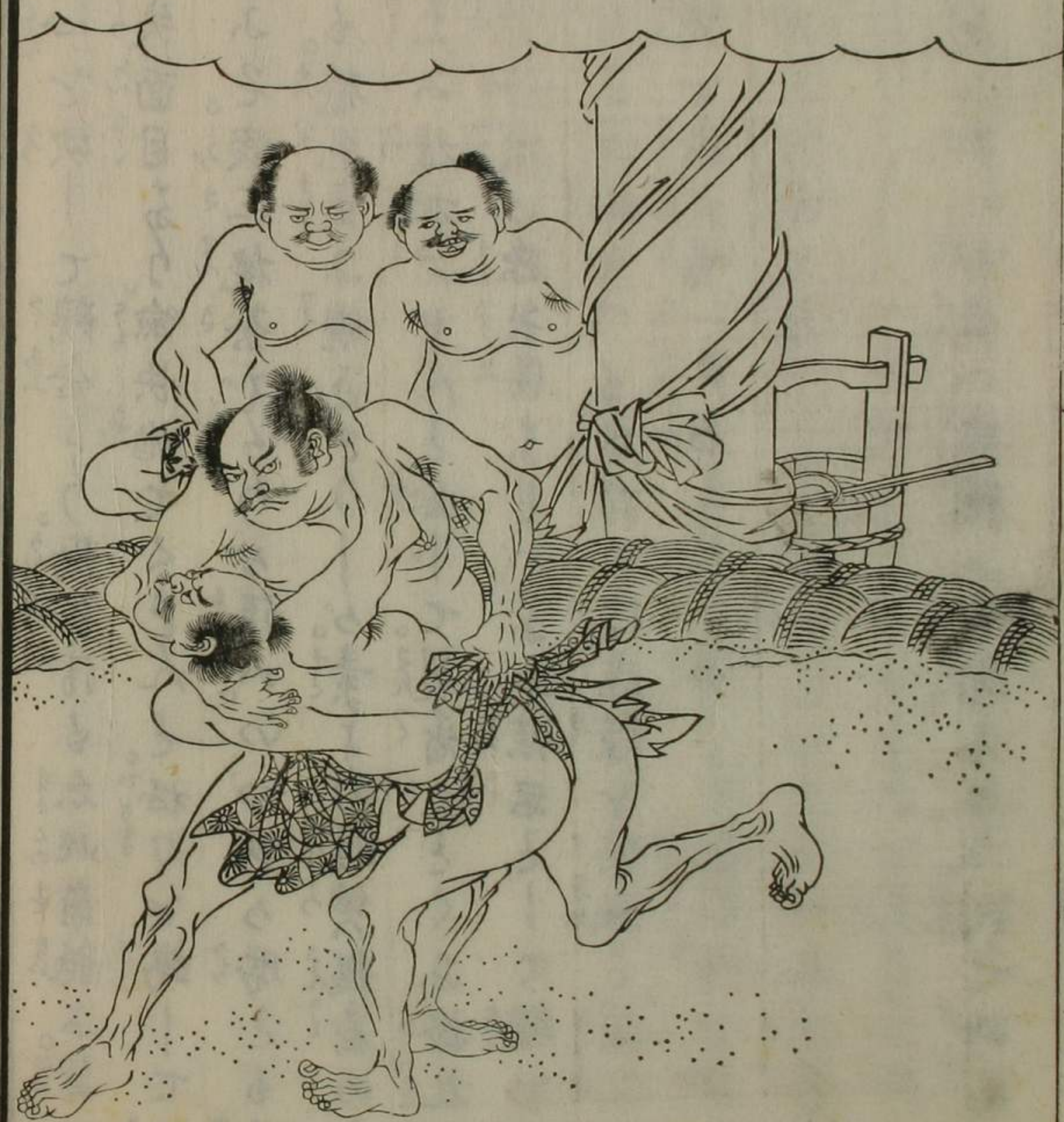
法不飛入てふ奮例の有無ハ閣き君より撰秀させしむ。我軍が競合さる先不定符の員不洩しむ。汝が審合所習ふし。そ去退け退りしと罵争ひ。急ヤ椿るとあるる不関白行司不命しむ。双方の我言と結めしむ。後辺勘名清行司不向ひ。こは屑あしむといつども。中村家不身と寓せて。冥白の所軍不干戈と振ふて向ふとある。款不徳角と見えしむるふなく。鄙怯の汚名を負しむるふなく。然る不遠般の喧角能法家の勇士不のもく。擇出さるしむ。それ中不我獨列不漏しむと今生後世の遺恨あり。寧以悟おけしむして。返る不返ふそあしむ。肚搔擲て耻と言ふん。然るなく。只後競合して。こが面目と死しむしむ。ぬふ。市

免許あるよう提掣てよと。至念てを言させたる。傳古清つも実もとおもひ。其肯と上関不達しむ。は秀吉公鞭然と笑せしむ。まひ。勘名清が研掃理あり。生怖中村一氏不ハ。所要あつて在合さる。故不重怨がると忘せしむ。悍勇勅力と論らむ。最初不撰出さるしむ。吁。是矣。あやまちぬ。渠角列不洩しむ。釋さる本言なく。たれふらめ。其心根の哀不思しむ。研掃不信て。後加と許容競合せよと。命さるしむ。勘名清猿狖在躍して。直地不汝囊場へ入らん。とさる。と。傳古清つ。錠童ありとて。着ひ。關と八箇不紙り。そと。もて。後前と定むるしむ。勘名清。正先不。高的り。ゆえ。し。ま。す。く。鏡。鏡。び。足。踏。躰。して。規。場。不。投。る。し。む。ぞ。七。人。の。勇

士ハ朽慥々れども方僅ハ絳論みちくさく。やおは渠
 奴面輸より疾抛去て恥辱ませよと息と逼てぞ見警
 を。美田統治ハ教刺憩ふて筋力まらなく調ひりよ。晏
 然として歩出。汝囊の中み進来り。後辺重徳と秀てやる
 み身材亦又三四寸ありて。これおそ勇士の位一ありと。
 いをねど耳目小病を以て。汝囊裡獲しと手と振おの。い
 といとふ擲くし。は。貴田心中みおれふよろ。渠奴徳
 人と絳論て角能場み出くるおと勇士の所存み似たり
 といえども。原來我慢の狡猾みぞある。これ端渠奴み負
 おとあつむ。驕慢の鼻まをく長けて徳人の仇ともあ
 りあん。羨みみ捷て猪田羨めく。鼻の正柱拗ぐみ去りし

と心と決して競合し。勦名清も亦此角能み負と取て
 ハ失面目あり。愉快抛てくまんと。秘力と竭して接合々
 るみぞ。吸三梳茶をくりが程ハ。いつは。勝とも攸る々
 と。も。髪を更み領とざりし。素より性災短意の勦名清
 火急み捷相見せん。と念して。裂着おとくみ拵扎起ると。
 奴熱赤練の孫名清み見。おお。結示として。腰と沈付。十
 二分み足搔せつ。も。足根の浮虚隙を察微し。後辺が腰み
 双腕と拵大唱一声。発せると。奔し。勦名清と宙み拘揚
 二回三回擡て。遠り。ちり。拵といふものみ。汝囊の外切
 へ。轉し。上下の將士一般み。それと忘れて。阿々。咄と。
 貴炎の声ハ。百發の霹靂み。も。擲る。り。別て。殘留の七勇

貴田統治
神授不
思議の力
と振ふ
諸勇士に
勝と取る



貴田統治

十一

士ハ張口鼓賣して笑頷まけ踊揚て繞欵び実不魏しき
 拳止ありとて呼吸天地と震たりり。依其次の浅野の
 勇長。龜田大隅もその番的。運人肯格斜格ふして肥後なる
 未と十冊とる好解して相良勇未見へ至人長政へのふ
 不も足らむ。流勇士奔しく此人とこそとあるく。汝囊
 場不投拳やり長揖志つも与合つら。美田の返迎と抱
 得らる。その腕激の柔と従らむ。龜田も推僵して。片時
 も速く昇了んと。氣火烈然と赤紀ども大力云双の大隅
 不まへ。左右なくハ負ともせむ。小書時の怪想て接合し
 ら。美田ハ与らる腕振致し。吼と突込。統政の猛奮力と大
 隅ハ遊んとする不御して。終不汝囊と推退され。意中齟

齟をふらりてぞ退みり。二十二番ハ長勇我弟の勇
 長。中内源名勝あり。運者ハ下を槽ともて決し。二十三番
 ハ蜂須賀家の極口内藤助。こまハやぐらのよともつて
 一。二十四番ハ福島の老黨可児才造あり。此者原来九別
 の養ふして幼女より角瓶と母も。乳柄もつとも拜と抜
 んで。四十八種の術もも熟秀。時く力競して。衆人の目と
 強し。ぬまへ。左清の太丈正則も。怯方差ふ勝おせて。斯
 有名士とこが家の居とあさハ頼欲うらんと。言たねど
 頼み漏る相みて。假庇の端近く進出巻に。凡し見警あ
 る。運响才造孫名勝と。四番も与合らる。その始より統
 治が。得子の裏ととくと考按。都會とらえて捷と棄らん

と。頭こしらの虚きよとぞ窺うかがふ。然しかども不思議ふしぎ神通じんつうの術じゆつと
得えたる孫まご名な清きよをば。才さい造ぞうが智ちの上うへ超こして。虚きよ際さいとぞ
を競ま合あ才さい秀しゆ別べつ格かくとたゆふ。風ふうして。激こくくと陸りく去き行ぎやうと
田でんへ氣きと試して推お付つけ来きる。才さい造ぞう得えたりと。汝なんぢ囊ふくろに
捨すらして。嫌きらさんとぞ。孫まご名な清きよ素もとより其その氣きを知して。急きに
る。殊こととぞ。果たまして才さい造ぞうその手てを用もちゆ。そと孫まご名な清きよ
ハ才さい造ぞうが除のぞ去き方かたへ入いりて。一ひと波なみつよく。波なみは。何なにぞ一
溜ためも堪たへるべき。得えた才さい造ぞう仰おほみ。汝なんぢ囊ふくろの外そとへ。僵こされり。
福ふく崎さき正ただ假かり庇ひ上うへより。這こ輸すとぞ。朽く憾げんさのき方かたあく
我われとも忘わすれ。握にぎ持もちたる。簿ろ扇せんと。微い塵ちんに持もち碎くだき。とぞ。三十
又また妻つまハ。田でんの。到いた士し母はは里り太た名な清きよ不ふそ。齒は的てきとぞ。是これ
汝なんぢ囊ふくろ

場ばに投なげらんとぞ。何なに比ひの際ときふり。一ひと個この矮こ漢こ子こ。圍い
土ひ壇だんの正ただ中ちゆうに突つ起おこり。在あり。これ。一ひと場ば矣や。田でん氏し不ふ競あ合あ濟じと
帰かへらん。つと。いふ。不ふ騎きき。残のこり。在ある。三さん個この勇ゆう士し倚よ渠けとぞ。其その
ハ。福ふく崎さきが家いへの。切きの。葦あし。桂けい市し名な清きよ不ふそ。あり。乃すなはち。身み材ざい又また尺
不ふ盈えいむといえども。鬼おに市し名な清きよと。秘ひ藏ざう布ふの。奮げん勇ゆう巨こ猛もうの
武ぶ士し不ふそ。ハ。備ひ市し名な清きよ不ふ捷せつと。占うら。と。今いままで。後あとたる。甲
斐ひなく。て。本ほん言ごんと。失しふ。り。も。や。と。残のこり。の。三さん個こ。軀こて。呵あむ
さん。あり。桂けい正ただ連れん汝なんぢハ。角かく觥かうの。宴えん列れつあり。と。加か之し。福ふく崎さき於およ
り。可う児に才さい造ぞう競あ合あ耳みみ。そと。顔かほむ。汝なんぢが。名な競あ合あ人ひとと。ハ。鳥あ許こ
の。所ところあり。快くわいく。過かや。と。罵ののる。と。桂けい市し名な清きよ些せも。賽さいう。と。
と。是こレ。後あと加かといふ。不ふあ。と。ぞ。是こレ。下くだより。市し免めん孫まごの。列れつあり

豊臣記九編卷之五

十五

投らる一いち位ちありと。いふふ三さん個ごのいよくいよく 軀怒こころいふふ
 いふふ下くだより。蠲免くわんめんと蒙まかる員定いんていハ。正洛しやうらく三十七さんじゅうしち個ごふ
 て。委あづか任にんするハ吾侪われらのそあり。然しかると蠲免くわんめんの個員いごいんあんど
 復言ふたご歎なげ息いきと吐つことあり。平生つゆの懇情こんじやうとハ格別かくべつあり。私
 あらぬ大おほの場あはあり。市各いちがく清きよありとも教おしへおろす。そ
 おと退のりむや去さむんハ誓ちか証しやうても返かへせんむと敷しき圍まきくの
 いらと。和あや軟な和わふ笑わらふて曰いは此この市各いちがく清きよハ生せい來らい欺ぎ伴ばんの言げん信しん
 と吐つらむ何なにぞ各おの侪ちと遊あそらんや。澄あ接せつの絨じやう巾きんと衣えをべき
 不ふおとともて疑ぎ惑ごくと解とて絨じやう符ふ取と出だ死しきて衣えをされば。
 驗げん不ふ遠ちかひなき絨じやう符ふの平へいあり。三さん個ごハ不ふ審しんをそやらむ。如ごと
 何なにふして儂ちか持ぢせしふやと。訊き問もんふ正ま連れん研けんらるるハ理ことふ

り。是こゝ此この絨じやう符ふと儂ちか持ぢむる緣ゆゑ故ゆゑハ。略りやく日にち相あ撲つの士しと撰えら拔は
 會あ市各いちがく清きよこそ撰えらむらるる。危あやあくと。思おもひ齟そ齟そセし朽く憾憾
 さ。こが身み材ざいの各おの列れつあり。這この選せん擇たくふハ洩もれまじもの。と悲あは
 哭なや無なふ劣あむる矮こ骨こつ強あ婦と人ひと負かの列れつふ投ならん。と行ぎやう司し十
 時とき氏ぢの紹せう介けいともて。履てん下くふ只ひた履まきまねらせ。乞こ食くらる絨じやう
 符ふふふん。浩こうる澄あ柳りゆうのあり。ハ。俸あ給つふとと休やすらむ。我われ
 不ふ一場いちじやうと儂ちからむよと。和あ軟な和わふ言げん發はつらる。ふぞ殘のこぬの三さん
 個ごも儂ちかむふふ。桂けいふ先さきと儂ちかりらる。ゆえ市各いちがく清きよ森もりぶ
 ことらぎりなく。勇ゆう士しの面めん目め此この上うへふ。ととへ輸ゆとも苦くる
 一いらむ人ひと教おしふ加くる。嬉うれしきよと。勇ゆう進しんで左さ向むかふ。六ろく尺せき二
 寸すんの美み田でん統とう治ちと。又また尺せきふ足あらぬ。桂けい市各いちがく清きよ登のぼて。いさ。鶴つる

鶴不鷹の翼傘ふ風情して最危くぞ見えへふりり然ども
 孫名清心中み斯むりりの矮漢子が聖んで勝負と争ふ
 かと定て是あるものありんみ小觀はる失生きんと座
 分つしし油刃なくぞ競合りる市名清ハ矮漢子也え
 手先のまさぐり危ふりんと痛と忌投て胸抱み絶突
 擗み占て去んと渾身の力と腕み呻まも然ども材矮き
 市名清ふと頭ハぬく孫名清が胸の下み當るのこ其
 田心みハ市名清と一掴みして抛んものと揺動りして
 試るみ実み此技と嗜む布どの脱骨ありて容易く舍叙
 分とりまハぬこそ殺拵贏んより輸ぬみ如いと也ごん
 なく術と彈いてぞ接合りるが挂ハ矮漢子ありといえ

ども膂力飽まで裂疎み足るまハ我頭とめて孫名清が
 魁尾の辺え拵よく両手と舒して統治が腰と抱へて
 約揚より孫名清務と一又みく冷トの拳止や彼換の
 者み輸ととるも朽慥き次弁ありと約らとふが足と
 纏みハかえづ菟の手ともつて一声烈く相僵しりバハ
 男の悲しきみハ抗角約揚よりりりも推抛がえて足も
 溜らむ醫居み撞と倒たりまハを殿下を首めまいらせ
 殊大名り見物の強勇士上下の人にもろ共みおもも
 むも大息吹出し又みくみ殘念あり倘人並の身殊あり
 ハ首尾全ふして勝べりりみ量取み及むみみぞあ
 りりり然し今約より三十余人交々競合といえども從

来一まひつり個も孫まご名清なみよと物上ものあがとる者ものへなうり一いち市名清いちなみよが
 小男こをとこながら浩くわる勅あつたま静しずふりりりこそ輸まるとも羞はづしうう
 いと。吟さやま合あてぞ稱い美び志しりりり後あと不の残のこるハ木村きむら名造なぞう伴ばん圍ゐん右みぎ
 清よしみ母はは里り太た名清なみよの三人さんにんあるが。次つぎハ右みぎ名清なみよの安やすふいて。
 其その也なりも無な双ふたの勇ゆう士しある不な身みの長ながも者ものあらぬ大おほ名清なみよあり。若わか
 や太た名清なみよが勝かちもやとるうと。大おほ將しやう清せい正せい志し明めいハ心こころも虚うつ不ふ
 累かさねふと。右みぎ左ひだり不な双ふた方かた場ばと立た合あ籠かごと激せき音おん虎こと虎こ土ど俵ひょうも
 志しむく踏ふみ前まへして接あ合あ相あハ美み田でんが不な躰たい不な足あしも弱よわり
 氣き色いろハ又また一ひとむ凍こく然しかと推お立たりり不なぞ了しやう得とくの太た名清なみよも
 舍あ親ちんがとく。遂つひ不な土ど俵ひょうの外あ面めんハ汝なと鬼おにして推お出しさせ忽たち
 地ち俵ひょう負おハ明あてりり。獲とて出でる伴ばん志し右みぎ束た角かく觥かうの軌き判はんお

ござる不な合あふりて引ひ紐ひもぐり。孫まご名清なみよハ最も早はや相あ手てハ二
 人にあり。手て足あしとらで勝かちべいと頻ま不な改か蒐そうるといふといえ
 とも。角かく觥かう切き若わかの志し右みぎ清せいハ術じゆつと尋たずして舍あ親ちんりり不なぞ孫まご
 名清なみよも精せい力りきと出でし。右みぎ不な扨たり左ひだり不な接あ獲との一ひと跳は去き小こ股また
 腕うで捻ひねり不な足あし也なりと。そのまゝ引ひ志し統とう治ちが持も木も反はんといふと
 ともて。翻ひら相あ不な引ひ外あ志しりりハ惜おむべし志し右みぎ清せいハ先ま不な
 轉まびりり不なより。遂つひ不な孫まご名清なみよが勝かちと得とてりり。此この志し右みぎ清せい
 つ不な到たるまでハ。履ぞうり下かより機はり出でされとる。勇ゆう士し三さん十じゅう六ろく人にん
 の外あ渡わた辺へ勅あつたま名清なみよ桂けい市いち名清なみよと加くえて。三さん十じゅう有ゆう八はち人にん悉ことごとく負まか
 果あてて今いまハ加く美み主しゆ針はり跃あ清せい正せいが勇ゆう居い木も村むら又また益えき重じゆう勝しょう唯ただ一ひと
 人にんぞ残のこりり。分まて伴ばん圍ゐん右みぎ清せいつが立た合あハ。七しち八はち分ぶんの勝かち色いろ

あるゆえ加後赤明ハ大不悦ビ是悲此方へ仕止んものと
 味津と吞て見物セし不案の外ある員と得しうバ朽
 憾きこといんりさなく決も松たぬ立合せんより此
 候収めらるべき事と言を族もありりとは清正いりて
 う借ふべき量ぞ鄙怯の所ありり。縦令又造員ると
 も徳士一同の事あんぬは別不我等が耻もあらず
 早く勝負と決まべしと言を木村又造もあどうへ堪
 え止るべき原末木村が程力におる主人の加後清正
 さる其量とわたり知ざりり。義丈も抵敢志うとく
 て身の長六尺三寸ありて龍背さながら凍石のおとく
 走ることハ奔馬も及む。我場不隙てハ鎗刀を持むし

て當る故と掴む物ぐわどの怪力あはば主計頭も今日
 の立合ふこそ造ら猪べきものと思はるは是れども
 初のうちハ初もしうとむ恐らく三十余人のうち不孫
 名清と極るものあるあくんたされば木村がつらひ不
 へ迫るまじと力もあげ不見物志るら思たざりり
 今此不又益重猪が處ふつり。清正ひとり心中不待こ
 そ神意の奇偶なき孫名清とて主計頭不扱場たるあ
 りりさよと或ハ怯とあるひはよろこひ半瞬舎を勅
 在り。今日や喜日速くとして長しといえども角紙の
 員二十八まで競合はる。既不日漆の日着終て。たま
 ひの場ふハ大燦と。四隅八面不焚連ね赤雲爛しる京

へ。況バ不ふ火くわ城じやうとも憐れんつべし。角かく觥かうハ這こ般ばんが最さい末まつなまは。世
 不お大おほ園えんとも私し由ゆべく。見けん警けいもまご筋きん骨こつある。然さる布ふど不
 木き村むらを造ぞう重じゆう勝しやうハ貴き田でん統とう治ち不ふ長ちやう揖いふ。唱やうと叫せうて龍りゆう向かうふ。
 獲もつ勢せう恰ちやうも左さ右う羅ら刹しやくの屍しかばねと棄あ競けいおとく不ふて。蹠や夷いうま脚あし
 响おとと叱し咤た憤ふん喝かくする雄ゆう結けつと不ふ天てん門もん表ひ地ち軸じやく動うごき。汝ど囊うハ
 ものうハ踏こ虎こ石せきありとも。跟きん不ふ觸ふるものあま。微き塵じんと
 ありて飛と散ちるむりり。怪や勇ゆう祝しゆ目めも怖おどりりり。両りやう士しハ心
 合あせ合あはる際まもふく。委あまふと与えて四よ番ばん不ふ松しやう不ふ双しやうもと交くわ合あ此
 响おと木き村むらと秀ひて是や是まは。美き田でん不ふ身しんの長ちやう二に寸すんむりり。超え増まり
 之これハ大おほ漢あ子こ也や。力ちからも然さこそと思おもはま。之これハ大おほ持ぢと
 孫まご兵へい清せいが。渾こん身しんの勇ゆうと振ふるひ。是これハ然されども尚なほ當あ家けが。是これハ
 縦た

令え神しん心しん爐ろ鞆とんともて。吹ふ銷しやうらさる。如ごとくあるとも。駭おどを
 もの。と稜れい根こんの。あま。んりぎり。と接せつ合あ相あ合あ。并へい授じゆ奇き絶ぜつの。勝しやう
 力ちからと振ふるえど。對たい方ほうハ。委あま。絶ぜつ倫りんの。又また造ぞう重じゆう勝しやうありり。是これハ此
 も眩くらむ氣き色しきあま。獅し奮ふん迅しんの。猛もう威いと駭おどり。半はん响おと許しよ接せつ合あは
 是これども。更さら不ふ羸れい輸しゆの色しきあま。見けん警けい志しら。儀ぎ侯こう連れんハ。宛あら
 酒しゆ不ふ碎さい。之これハ如ごとく息いきと逼つて。在ある。是これハ。是これハ。中ちゆう不ふも。法ほふ
 正まさハ。吾われ家けの。后ごの。采さい辱じやく窮きゆう通つう右う不ふ踏ふま。バ。尤なほ不ふ見けん傾けい左さ不ふ遠えん
 是これハ。右みぎ不ふ身しんと。偶ぐ寸すん隙げきも。目めと放はなま。不ふ一いつ心しん唯ただ与あ合あはる。
 兩りやう士しが。下した足あし下した不ふ。黏ねん总そう志し。之これハ如ごとく不ふて。挫あ固こむる。薄はく卷けん
 の。爪つめ不ふ裂さくる。も。う。ち。忘わすれ。是これハ。獲もつと熱ねつして。見けん獲もつり。在ある。之これハ。响おと
 重じゆう勝しやう統とう治ちハ。与あ合あはる。一いつ彈だん指し刻こく双しやう踏ふ八はち肢しを。あ。一いつも。蹠や

りむ。噫然として息吹在る。行司ハ兩個不活水を加す。
 汗ふど拭ふて首尾不念加脊頭と志むく。松卸く。靜
 不雄と決し。ゆえと力と養ひ氣と慰さむる。斯有間
 不も名造ハ古今南敵の達人ふして。いとも歎ある奇抗
 と得と。是ハ別才孫兵衛が虚吸ふ心とつけて察愈ふ。い
 り不統治剛猛ふして奇異の神力を得るといふとも今
 朝より三十有八人と闘交終外根柢を累勝ありふも別
 て後辺劫名清と物殺ぐら一鎮末大不氣力を勞費し。乃
 是バ衣身絆と換痛志するふ。伴園太清つ。母里太名清不
 對するふ速びてハ筋骨さなぐら敵のおとくありぬべ
 ふ思たるく。ふ今亦木村重勝の怪力士との抵抗あるは。

虚吸殊不火急然も若くは不見え々々ふぞ。木村ハ意中
 不微微うりと。いよく。笑田不氣と粗をセ。隙と棄ふて
 勝と得らんと。これうらざと百変を化し。猿狂馬躍志
 て試るふ。案不遠をば名造が。癸子不誘きて推出し。壓倒
 さんと突蕘り。あらひハ擲物と接撥倚轉入首浪枕情。捨
 返し。水車碓の羽翻腕反不若投人とする。と解脱し。捨ん
 とされハ拂去合子閑も虚く。冥く。歎と竭し。秘と極至接
 づ。標をつむる。わど不疲果する。笑田孫名清が。息遣さふ
 から急墮のおとく。足根をこし。踉蹌不見ゆる。其虚と
 澄又造が。阿と一喝叫ぶと。露る。墜ふ。了得奇怪の統治と。
 脐研させて宙不抱揚。渾身の膂力と腰ふ。いと。二脚三脚

歩あゆみごぞき又また回まわりかとと狼ろう狽だなぐ。蛙かとと拭ぬぐせ。いりり
 ども大漢おほのこ子こみいて怪力あはれあはれは重おもきも撓たがらたづ激奮げん
 紀きくる声一いっ奔ほん汝に囊のうの外の外え抱もち出だりり。現げんみ忍ろき勇ゆう
 猛もうありり。返かえ来き三さん十じゅう九く裏りの相あ撲まふ東の方かたへ分幣べい拳けん一いっ
 へ遠又また造ぞうら初てなとはをあ下くだと叙めまりして法侯ほう法ほう
 勇ゆう士し孩ご目もく回かい耳じ。吳の口くち同どう様ようみ做らりくと松しょう嘆たんの声ハ
 山やまも抜海かいも傾くむりみて床と鳴一いっ掌てと敲き教刻こくハ
 鳴な動どう止とざりり清正せいハ嬌一いっき刺りみ假かり庇ひみ犯て三連れん
 まで実不ふ頼たも一き勇猛もううあらふこのも一き勇ゆう猛もううあ
 と声と振え一羽うと用き舞をりり其隣りん不ふ座ざと列ねとる。
 若わ田でん利り長ちやう福ふく崎さき正せい刻こくの両将しやうハ被き一素そ袍たう搔か解かいて重勝じやう小せう

進上しんじやうをとて場ばりりるあそ面目めんなは

貴田きでん統とう治ち成せい加か茂もう清せい正せい臣しん 属りやく 肥ひ及じつ発はつ向きやう

山やま嶮けんなとば富石とせき多おほく海暴あつらとば波濤たう大おほあり強不じん神しん智ち
 天てん勇ゆうの清正せい不ふ天てん然ぜんの勇士しの属をりも自力りきの死所しよをとを
 べりるを然ぜんハ木村きむらな造ハ経なくも又田でんと土俵たわの外え
 抱か出だし金く猪と得る不依よて徳侯とくあとく清正せいが
 武ぶ徳とくと感ず各来きたりてあはれと賀が一い今いまな造が猪らるあと。
 武ぶ門もんの面目めん主しゆ人にんの幸福きふく孫そん各かく清せいが如き勇士しともて又が
 老らう黨たうとせるあそ天晴あつ武ぶ士しの云教くわう者ものをとと口くみ
 松しょう嘆たん一いっりり返かえ下くだみ最先せんより勇士し連れんのうりりく撲
 輸しゆろと痛いた心しん一いって在りりるが末まつ始し不ふ及あんて又また造ぞうが勝と

るゆえ法士の外園と續ひ天下の威勢とも減さざりし
 と思しゆさきとをふりて清感あるせらるる時子孫各清
 と唱ふ統治休息さるるもあく唱ふては前
 出せば後下まづうら宣ひりらるる。古往今来勇猛怪力
 の名を得たる者其数多くありといえども汝がおとき
 神カといまど考て見聞せむ予が擧出せし勇士輩三十
 八人子孫得たるハ言語不絶せし拳止あり最末不及て
 亦造不負よりしも全く汝が弱きみあはむを練筋不骨の
 ものふもせよ妻の目長と終日あはて夜ふ及ふまで接
 合りりと。いりてうその身の疲色さるんや。然あきごふ
 其方が始の相不負する方へは後をべき固き約束せし

あはむべき公をべき所存ありや。彼名義が主人あり。主計
 既ハ別是あり此清正ハ秀吉が股肱耳目の勇士ふして
 汝が主と頼むとも。いりてうハ耻辱ありべき忠義を
 して公をよと映氣不室ひり。孫各清懐て誓首再拜
 し。うへまぐもありがたき命令こそ。從意のおとく
 主人定の角瓶あり。そのお撲不負するうへハ尚ま仕
 ふる譯ハ師命不辱むる所をば決して私の意と換合
 むべきふあはむ此身ふとりて是分の造化此上なき歎
 疾ふひあり。只後悔ひとてまつるとぞ言状さる。清正も
 礼を正し。それ其方が主たること速むざる所もあはん
 が。主計頭が苗代あり。又是の捷得するも。驗不神明の奇



貴田統
治殿下
謁奉
新正
の臣とある



偶そりし然不思を以てまよせハ。それたくりの主君
 の武徳之此上のありとも覺へむ。執懐猶彌不溢る
 ありと飲然として言る。と。天田統治承所其おふ
 セぞ理ある。と。とや神の妙守て武名いとく。ふ
 訓言き良大將おつりふまつる。後卑此身おあまりあ
 る。何りがとき緯ふをべる。唯此上の忠勤と策勵をべ
 る。わう他子いらを。出戦の伴の。許容あ。ば。碎身粉
 骨つりまつり。寸切ともて。怒沢不報。と。をべるありと。
 誠信あふて。その言。は。清正ま。く。感悦せら。改正
 不主従の盟約とあり。後今用鞏の母と。結ふ木村又。孫
 と。叔として。飯田井上。本あんど。一箇。く。不対面。あさ

しめ。親交の荷擔合せさせ。と。り。然。布。と。不。参。居。下。不。ハ。
 相撲。津。遊。覽。の。始。末。不。能。て。小。倉。の。城。内。不。三。日。布。ど。ハ。
 還。留。あ。り。せ。ら。右。左。不。春。も。全。受。て。四。月。不。こ。そ。ハ。あり
 不。乃。是。然。ハ。早。く。肥。筑。と。伐。んと。ま。づ。以。舍。舟。大。納。言。秀。長
 卿。ハ。日。向。口。の。主。將。不。是。ハ。攻。菟。り。と。る。宮。城。を。再。び。捉。逼
 落。城。させ。んと。角。力。終。り。て。其。翌。日。浮。田。右。川。小。早。川。降。領
 賀。田。の。佐。將。と。副。ら。是。宮。城。へ。を。を。さ。ら。く。履。下。不。も。肥
 後。口。より。津。進。癸。あ。る。べ。と。津。隊。初。と。定。め。と。ぬ。ふ。利
 ハ。秀。長。の。子。不。秀。一。三。家。其。先。陣。ハ。加。藤。主。計。頭。清。正。福
 一。不。小。日。向。口。へ。向。一。不。不。其。先。陣。ハ。加。藤。主。計。頭。清。正。福
 鴻。元。集。の。太。丈。正。列。蒲。生。飛。騫。守。氏。々。茶。田。肥。前。守。利。長。不
 命。せ。ら。是。堀。元。集。の。督。秀。政。と。軍。師。と。せ。ら。る。その。日。ハ。四

豊臣記九編卷之五

廿五

月一日の早天先陣として奮發せさせ肥後
 口へぞ推出させらる。軍師秀政心と配りて進發の路次
 と考ふる。小直の西鄰磯小岩石といふ城あり。是れ秋月
 の家屋あり。熊見越中守。坂田悪六名。清といえり。者堅固
 小牢城あり。乃に是ハ。路次の妨あり。乃に也。此一城と攻
 陥し。安んき。下馬と進めんと欲し。乃に是れども。岩
 石ハ名城にして。要崖堅牢あり。のそあり。む九列。云双の
 然見坂田これと堅く守り。乃に也。容易小落城をべふ
 もあり。ねば。益小士卒と換えん。乃に也。壓兵の兵と殘し
 金津進發まわらせんと。秀政こを。下馬言を。下馬
 つともとおなり。めさせ。宜ふとの命あり。誰とが。小岩

石の壓守ふせん。と評議志り。是れども。先登と志せ。也え。
 壓守と好む將あり。是れ。乃に也。小も。關と役けら。是れ。進止
 と分ち。批し。むる。小。蒲生氏。此關。小。當り。是れ。こを。小。依
 て。堀秀政。よく。く。惣し。乃に也。小。氏。乃に也。是。思。お。よ。む
 む。不。詳。あ。り。こ。を。と。緒。あ。ひ。壓。兵。の。準。儀。ま。ら。し。い。え。ど
 も。い。と。む。こ。小。殘。止。ま。ら。ま。と。最。朽。憾。き。乃に也。小。思。ひ。如。何。小
 も。あ。り。て。岩。石。と。攻。陥。さ。ん。と。ぞ。工。夫。し。乃に也。小。り。乃
 蒲生飛彈守。頑攻。富石城。属。清正。施。計。
 鮫。は。ら。あ。り。を。激。流。に。せ。り。移。は。し。く。暴。風。に。向。ふ。勇。者。を
 ら。各。自。其。の。鱗。毛。と。愛。む。る。こ。と。斯。の。如。し。規。や。戰。國。の。勇
 士。と。や。先。む。小。聖。ん。で。後。ろ。く。小。羞。る。ハ。我。の。考。ふ。ま。ら。る。所

豊臣記九編卷之五

九十五

あり。依も蒲生飛騨守氏々へ。己の之を執残させ。岩
 石城とおさめるおとの栲憾さふ何卒此城と攻陥し。借
 小先陣小向もんものへ屢工夫と凝しつも。故地のやう
 そと窺せんと。吉田兵助と叫出。汝意不覚石不到り。
 故地の相と奪て来且と言付る小名部へかこころ。城小
 近づき爰かよと遠らし。立取りて告るよう。城の要
 害ゆたのおとく。堅牢おして。防禦嚴し。義兵各士も女
 うらむ。まつと棟の村里と見る小養父の任家へあまこ
 在ども。男女一人も棲もろさむと。突て氏々殲し。禁の
 農家小人在ざるへ。宣得ねふ。くびまを窺し。めんと。
 布施治兵衛。太田久助。小令せら。汝等禁の農家小

到り。何日以還き。くわの体あつり得と見届来とある。兩
 人か。あま。民家不到り。能く見届立取り。百姓輩の立還
 くら相と熟く見い。小食おふとせし。趾と見えて。飯粒干
 きて。櫃小襖糊。そのようさを。もて。紫むる。小又六日。己前
 小。立還。くわと。覚ぬと言ふ。おそ。氏々。いま。見足。とて。
 念も。蒲生源光。米つと。思を。さる。お。是。ハ。智勇。の一將。お。是
 へ。速。小。見。届。歸。り。民家の。若輩。十日。己前。小。立還。くわと。お
 おえい。其。故。い。う。ん。と。あ。ま。を。推。小。返。の。際。くわ。日。と。筈。ふ
 る。小。三。月。元。一。日。の。こ。も。後。雨。天。あ。ま。ざ。は。彼。お。の。民。が
 立還。くわも。返。の。際。さ。る。己。前。あり。雨。後。小。還。く。も。の。あ。ま
 へ。往。來。の。路。小。足。趾。あ。ま。ん。が。田。畔。徑。踏。小。足。趾。あ。ま。き。ハ。十

日己不^レ立^レ返^ルつること疑^ハひ奉^ル。備^前城の名^を率^テハ大勢
 の中^に不^レ見^ル也^のも。對^シ戦^スをべき^に最^モ數^フふべし。
 是^レ禁^ルある百姓^と。延^集め^ルもの^を不^レ去^ス。然^ルバ城^を攻^ム
 臨^ミさん^と。怒^リの^まま^に存^ズれ^ハ。早^ク下^ヘ言^ハ状^をお
 つて。攻^ム逼^ルぐ^に。又^もと^も勅^メり^しに^ハ。氏^部大^に表^シ。汝^等
 て^ハ斯^クのお^とく^に。子^細不^レ見^ル。遂^ニる^もと^も能^カむ^を此^上の^あん
 の^おそ^れ怖^リあ^らん。城^を攻^ムの^事を^バ。敢^フべし^とて^ハ。所^登尤^に進^ム
 使者^をさ^しし^め。下^ヘ一^言さ^しる^らよ^う。岩^石の^城を
 窺^フ不^レ攻^ム。便^にの^い万^軍。城^を攻^ムと^ハ。許^スあ^らず^や。作^付と
 ま^つら^べう。再^三お^しを^と。敢^フひ^らの^ゆえ^に。下^ヘ不^レ蒲^生ら
 勇^悍の^かど^とと^も感^トる^に。又^もハ^ハ城^を攻^ム。濟^免と^も命^をせ^らる^らし^う。程^々

濟^前心^を添^フぐ^に。又^もハ^ハ蒲^生ら^が一^隊の^勢を^テハ^ハ心^をえ^なく^お布
 し^めさ^し。丹^波女^將秀^勝と^も大^將と^{して}。加^藤清^正。前^田利
 長^とお^副ら^る別^て。主^計頭^清正^の目^代の^役と^も命^をせ^ら
 是^レ岩^石城^を向^テせ^しむ^ふ。こ^の不^レ依^テ氏^々の^欲悦^女あ^ら
 ら^む速^に。時^に不^レ城^を攻^ムの^事を^バ。敢^フして^ハ。蒲^生一^隊の^退手^を向^テ秀
 利^長の^橋を^あり^{。然}る^に不^レ加^藤清^正の^目代^とも^ハ。退^手
 の^進手^の趾^を不^レ續^ク。下^ヘ不^レ此^城攻^ムと^も覽^ルあ^らし^うと^も。枚
 原^山不^レ濟^陣と^も移^サ。山^の絶^頂不^レ子^成。甄^の馬^徑と^も多^ク
 推^立佐^將不^レ勇^氣と^も勵^マ。さ^ま不^レ蒲^生飛^浮守^氏の^智
 勇^兼佐^の名^將を^バ。努^メ不^レ下^ヘ知^チして^ハ。退^手不^レ推^進禁^の
 佐^えと^も一^時不^レ跑^破り^{。暮}然^として^ハ。弛^セる^{。城}不^レ見^ル。

中守村田悪六兵衛の両勇将面路脊路およてくまて不立分たつぶんは女めも
 屈まがせむ被かるる死しならず炮矢たうしを飛とばすこと電でん魚ぎよの如ごとく進まるの
 先陣せんじんと教くわ多く縦横じゆうへい乱殺らんころし赤倒あかたふせばさしも小獲せうかくき蒲生がふぶ
 勢せいも進まりぬて露るりりと兵へい々々おちひひ不怒ど激げきふふ遠とほ目め
 兵へいの振ふる出でりり城しろと攻せるる小炮せうたう矢やと忍おそえていついつりり勢せい切きと
 達たつらるるべき殊こと不こ此邊このへの城攻しろせうひひ此方このほうより乞こ聖せいで攻せるる
 くらくらりりああるるむむやや腹はらしてして法あぶ人にん不ふ堂どうををりり知しやや屋下やんかの
 不ふ覽らんあるるぞぞ此この一城いちじやうと臨おとし得えむむんんの戦死せんしととああそそ知しとと覺かく
 一ひと是こゝ退ひくくものああるる軍令ぐんれいの許ゆるままししと雷らいの如ごと
 き大おほききふふてて唯ただををりり下げ志し々々りり不ふぞ蒲生がふぶ四弟しだい兵衛べい
 所ところ聖せい尤なほ近ちか布ふ施せ治ち弟だい尤なほ弟だいのの小川せうがわ圖書とくしゆ侍しやう士し率しゆとと勵げんまましし陣ぢん

頼たの不ふ進まるる敵てきの炮矢たうしをを此こゝもも怖おそむむ二ふた三さん不ふ攻せ付つり
 然しかども城じやう中ちゆうさままぐぐ不ふ案あんをを欺あそむむとと欺あそむむはは悩なやむむおおはは不ふ依より
 蒲生がふぶ勢せい手て負お死し人にん教くわ多たありり橋はしもも念ねん此こゝおおととくく防ぼう禦ご嚴げん密みつ
 ありりるる包あむむ悩なやままささるること志しむむくくありり時とき不ふ清きよ正まさ工くわ
 支しととああししままがが支し勢せいとと休きう足そく不ふささししめめ兵へい々々不ふ言ごんををよようう我われ
 此城このしろとと攻せ破ぱるるべき一計いちけいとと得えりり足下あしもとことと用もちひひととぬ
 ちちがが二ふた三さんのの丸まる取とるること易やすしし用もち捨すりり不ふととありりるる
 とと飛ひ彈だん守しゆ軍ぐんももああくくむむこれ乞こ聖せいでで此城このしろ不ふ攻せるるりりるるるる
 不ふありりおおははむむここがが存ぞん亡ぼうのの當城このしろのの臨おちるととおおちちぎぎるる不ふととつ
 不ふありりいいううああるるるる不ふもも危あげげいでいでややああるるへへきき只ただ策さく依よ謀ぼうと
 弟にいふふといいふふ响こゝろ不ふ清きよ正まさ説せつてていいととくく丹にもも此城このしろ堡ほとと攻せ拔はん

こと。教目を経てハ松平まじ。是悲しく今日のうちおあり。然ども存者ふことと攻まハ自方の死亡女なうらむ。と始ゆり城のようまを考るふ高嶽堅固ありといえども。櫓も不弱き所あり。此故ハ城名も教多く破所と守らり。それ不付て一針あり。今より足下の軍勢を退上ら。櫓手の勢と一所ふあり。急不攻るの体と秀せなハ。城名も櫓と大將ふおもひ退きの名とてな。櫓もふとさべ。日の暮んとする頃とまちて大軍一地ハ櫓手より。攻入さぬと秀せりけつ。却て足下の退名と標と出。退きの櫓不埋伏させて。うらうら。志とぬを。二の九と衆取人あとい。必定あり。二の九とさ。一衆取らハ。廿九

ハ又方術もあうんと示し。うらふぞ。飛騨守感悦まらる。ゆり。うらむ。そのふ。配ふぞ。及むと。うら。佐々計頭。清正ハ。ま。づ。うら。手勢を引率して。あきうら。ふ。櫓手へ。推廻り。秀猪利長。不。對面して。謀計の。次。才と。強り。城。不。夜。軍の。支。度と。させ。うら。加。後。不。續て。痛。生の。勢。も。來。加。を。り。うら。ふ。より。清正。下。知。して。秀。猪。利。長。の。強。ふ。つ。づ。ら。て。清。正。氏。の。使。と。な。させ。櫓。手。の。櫓。不。列。隊。を。其。相。も。つ。と。も。後。重。ふ。して。義。馬。守。と。推。立。し。大。軍。踐。ら。む。櫓。手。より。攻。蕩。る。べき。体。と。な。さ。ふ。ぞ。城。中。より。こ。と。と。秀。て。櫓。手。の。大。將。苅。田。悪。六。兵。衛。が。い。と。く。是。り。あ。う。む。故。の。者。共。櫓。手。の。攻。易。き。所。と。知。り。て。惣。蒐。り。ふ。て。此。方。を。攻。ると。覺。え。し。り。城。中。守。え。も。殊。

むべしとて。退きの方へ使と馳らせ。去るぐと告ぐる
みぞ。越中守も最前より。退きの故。各退散して。皆搦手へ
向ひらると。怪しむ。在らるその所へ。芥田より。若来り
う。バ。弔地。搦手へ。馳来り。進兵の体と。熟く。露る。不正
く。夜軍と。ま。べき。体あり。搦手の。防戦と。きびしく。せむん
む。ある。べり。むと。悪六兵衛と。弾礮を。一子。八百
余人と。退き。へ。不百人。残し。搦手へ。一子。三百。余人と。もつ
て。ゆえ。し。め。越中守。へ。初のおとく。退きと。堅く。守ら。せ
り。悪六兵衛。へ。脊門。不守將。として。一子。三百。余人の。兵士
と。四。子。不。分ち。て。四。う。所の。持口。と。固め。させ。炮矢。を。多く
用。え。ふ。し。備。き。び。く。竹。藪。より。既。不。其。日。も。暮。り。せ。ば。晴

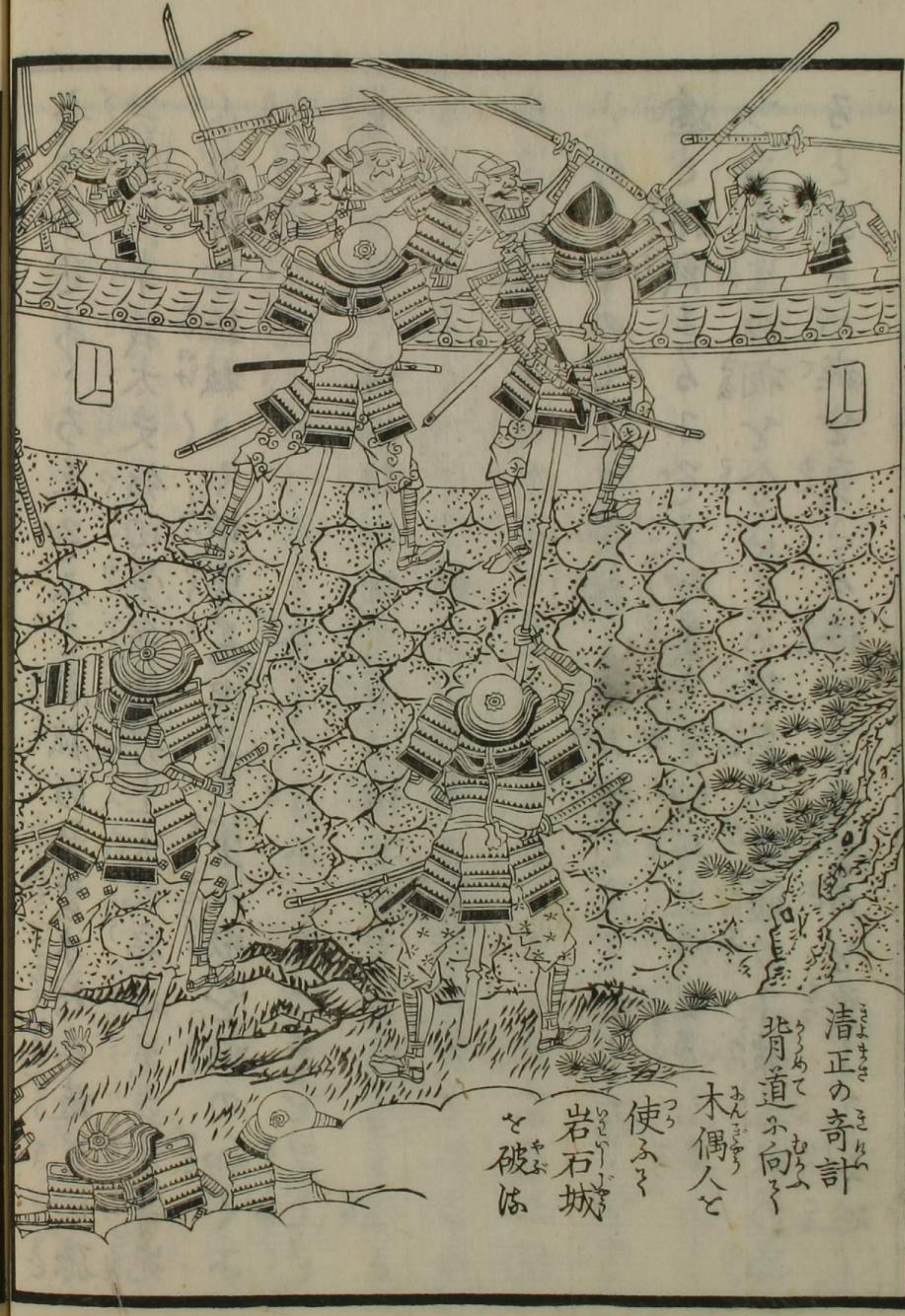
正両方の佐將達へ。謀計と。既。示し。ま。つ。搦手へ。進る。人。ハ。
丹波。女將。秀。務。若。田。肥。前。守。利。長。氏。々。の。名。代。不。ハ。蒲。生。四
郎。兵。衛。清。有。り。こ。ま。不。清。正。の。勢。を。加。え。て。惣。勢。一。万。八。千。余
人。四。月。初。日。の。戌。の。上。刻。不。ふ。く。松。明。ふ。り。て。一。城。と
一。度。不。つ。り。り。け。く。天。地。と。岩。を。勢。ふ。て。湯。く。と。して
攻。め。る。預。て。期。し。く。城。突。も。斯。る。大。軍。の。糧。威。不。忍。を。ま
あ。し。怯。て。秀。え。く。る。酒。え。進。兵。の。大。軍。持。橋。と。望。げ。噴。く。声
し。て。濠。際。ま。で。攻。進。る。城。突。ハ。あ。く。ろ。槍。せ。し。ゆ。え。不。や。進
兵。の。い。ま。ど。近。づ。り。さ。る。際。不。た。や。澆。地。と。警。發。を。進。兵。ハ
こ。ま。と。疎。と。も。せ。む。城。下。不。付。り。ん。と。ま。時。不。清。正。大。將。揚
て。炬。火。明。り。あり。と。い。え。ども。夜。陰。未。だ。ハ。一。く。不。それ。と

ハ分明あるまじ。早く城下小身と殺して暗号次身小
入べしと。呼たりりりりと城中おも。と。りり小あきと軍
る也え。又よこそ進名ハ謀斗あんふは。神形ハあ。と。と
とあ共小城下小服をつけ。進。う。ハ。お。提。ん。と。あ。配。り。あ
して窺ひりり

加茂清正施針端岩石城属 城將殺死

漢の言祖平城小田。陳平謀て傀儡と造り。單子の妻
國氏と歎て田と解しと世傳小見えつ。甚と是とハ至客
の。差別ありといえども今清正が改。う。針。機。ハ。陳。平。が
巧小似きり。時小加茂正針頭清正兼て家来小命。と。金。と
る斗略あり。時こそよ。り。行。ふ。べ。し。と。て。密。小。指。揮。と。傳

あり小ぞ。あ。ろ。え。ぞ。ふ。と。服。腕。の。老。堂。木。村。の。造。美。田。孫
兵清。本。義。太。丈。飯。田。覚。各。降。井。上。大。九。常。飯。並。立。本。等。先
手の陣と並抜く。甲冑忌せ。う。菓。人。形。と。拵。の。如。く。小
先へ突立城下小つくと奔。く。小。小。く。こ。と。と。呈。上。と。
勇士の猛く城石垣小取付登る俣と見せ。さ。あ。が。う。活。と
る人のおとく。下より使ふてあせ。る。小。ぞ。夜。中。の。り。也
え。ま。依。分。ら。む。城。兵。併。こ。と。と。見。て。ま。い。こ。そ。敵。あ。き。歩。提
と。除。さ。し。の。む。し。て。突。落。し。薙。刀。揮。て。あ。ぎ。倒。し。あ。と。と。あ
途と防戦さる小ぞ木村。本。義。田。井。上。併。喚。叫。ぶ。声。の。う
ち。小。死。生。の。相。と。分。さ。し。り。城。兵。の。除。薙。刀。小。破。人。形。の。高
るとあき。は。疵。と。負。さ。る。体。と。あ。し。苦。声。と。発。して。引。込。し。



清正の奇計
 背道不向
 木偶人と
 使ふ
 岩石城
 を破る

名彼方より攀躋る。此の如く不交代る。退つ進めつ欺き
乃其ハ城各ころぞ一大持と。礼結してぞ伐拂ふ。進名ハ
生死と願さる。体おもてあし。吾二吾三不攻りる也。此
体おもてハ可ふまどと。退手へ急不使と走らせ。搦手危急
あらふより。加勢あせと告ると。固城守こきと実と一。
退手の坂と岩。後不敵一人もあらざらば。謀計のありと
も知らず。搦手の危急と救をむんハ。腐破して齒寒さの
愁不遠かん先や救えと。又百のち勢と。三百余人退手不
留め。二百余人とぞつら率一。搦手の防禦不弛加をる。
此响蒲生氏卿ハ強兵又百余人。不て岩石城の退手あり。
林の茂林不埋伏。一りら。脊門の合戦正最中とおおえ

て。喊の声矢叫びの音。志きり不固えりるふより。時分來
ると。飛渡身情急とぞて窺えしむる。不越中守今既不脊
門と救えんとて。弛ゆるるを見。危け來り。備不注伸あし
りら。不ぞ氏ハ聆て。今ハたや心安し。快歩起よと。下知志
つも。名士ハ赴て。救と會ませ。馬ハ響と結むせて。情地
不推進より。面門と守る。城各。脊門のりるのと思ふて。
伏名ありとい心もつらむ。防禦不怠る。その呀え。蒲生の
勇名。表くと。苦もふく。嘆際不盡。驚り。吐と。融とぞ。揚より
りら。其声山林石樹不响きて。敵方の軍勢。忽然と。天より
降し。地より。佛より。おとく。思え。駭し。あんど。のふむ
りら。あし。固城のりる也。城各。軍の驍。旗をるること。女ら

む慌忙立惑ひ。敵の多女も見分得む防戦もせむ散れ去
 り。小氏の防勢と大不獎し。叫り喚り指揮者り。度不
 進。軍兵の蒲生勢の隊中より。擡出せし勇士なきは。
 何りの女も。粉微をべき。縫給手鎌と。塀に引掛跳躡。敵
 る。そをば。なう。ふも。蒲生源方。集つ。成。脚。群。不。抜。で。正。斜。不
 進。一。度。不。換。下。不。つき。士卒の。肩。と。足。代。と。あ。し。塹。を。翻
 流。と。跳。越。り。せ。ば。城。兵。へ。入。立。し。と。遮。る。所。と。深。左。集。つ。大
 左。刀。振。て。斬。落。し。薙。作。し。直。不。城。内。へ。跳。で。下。り。四。角。八。面
 と。暴。廻。る。こ。を。不。待。て。町。野。元。近。小。川。國。書。布。施。治。弟。方。集
 つ。神。田。信。右。衛。門。守。村。守。方。集。つ。吉。木。助。右。門。屋。助。右。衛。門
 俣。り。こ。の。中。小。栗。生。源。方。集。つ。守。り。あ。り。岩。の。石。と。法。西。年。紀。不。出。し。と

而。不。改。名。せ。て。か。く。の。如。我。者。ら。と。乘。入。り。あ。る。と。幸。不
 突。殺。ま。し。内。より。城。門。と。突。き。り。ま。は。大。將。蒲。生。氏。々。と。先
 じめ。百。の。從。兵。委。く。喚。叫。で。乱。入。了。得。不。堅。固。の。面。圍。を
 是。ど。も。易。く。と。攻。破。し。り。城。兵。大。半。散。れ。し。て。僅。不。勇。を。と
 策。む。軍。踏。止。て。防。戦。せ。し。り。ど。勝。驕。ら。る。蒲。生。勢。が。吐。炮。の
 如。き。猛。奮。不。い。う。で。り。敵。を。ら。る。子。と。得。ん。や。或。ハ。亦。是。あ。る
 ひ。ハ。瘡。と。負。殘。兵。ハ。も。八。方。へ。枯。柴。冷。灰。の。風。不。追。る。し
 より。繞。り。終。り。と。し。て。逃。散。り。ま。は。氏。卿。大。不。敵。繞。る。手。勢
 と。一。所。不。纏。集。脊。門。の。自。方。と。強。し。ら。う。へ。本。丸。へ。蒐。る
 べ。し。と。て。休。と。固。めて。軍。兵。不。整。く。休。足。せ。させ。し。り。脊。門
 不。ハ。又。進。兵。の。大。軍。喊。と。修。り。鉄。炮。と。放。蕩。吊。時。不。索。入。威

勢ハ見えど敢て急小ハ棄入らざ。そとと城小ハ棄入
 ちとぞと。火水とあつて防ぎらととも。一八八の大军
 山とも震動ささるなり。不攻立らる由え斯ハ叶を
 トと。退手へ救と求めらる。不ぞ。越中守快弛来りて。まを
 と救とんととる所へ。退手の残名逃来り。合戦の相と若
 々々不ぞ。熊見坂田此ハいり。不と。移き来て。忙然と。越
 中守ハ二ガ持いと破らえて。ハ面目ホ。退出さむんハ
 あ々べうと。まと。血眼ホあつて。取て。返を。脊門防禦の軍
 兵ハ。面門破せしと。同より。も。肝と奪を。堀飛で。防らん
 と。まら。氣力も。なく。復想廻ると。加益。が。老堂城内の。噪と
 見澄し。時分ハ。よし。と。偶儀と。投棄。候。不。手。と。う。け。棄。入。ん

と。ま。それ。が。あ。り。不。も。美。田。孫。名。清。ハ。法。正。不。在。置。し。て。手
 初。の。合。戦。な。し。ハ。拔。群。の。切。と。立。君。恩。と。報。せ。ん。と。神。授。不
 思。強。の。力。と。出。し。拳。と。固。めて。塹。の。壁。と。三。回。つ。ら。て。あ
 布。ど。不。恃。切。ら。り。字。候。も。微。塵。と。あ。つ。て。崩。れ。ら。る。不。ぞ。統
 治。論。と。扶。不。あ。り。品。の。り。棄。入。て。こ。と。ハ。加。益。法。正。の。居
 美。田。孫。名。清。統。治。岩。石。城。の。脊。門。の。一。處。棄。ぞ。と。天。不。も。棄
 く。大。吉。物。て。呼。ち。り。ら。ば。木。村。名。道。齋。本。義。を。史。飯。田。井
 上。齊。名。鶴。棄。投。く。攻。薙。せ。ば。茶。田。の。老。堂。山。崎。正。名。清。川
 系。名。庫。此。体。と。看。て。近。来。り。者。ら。ド。もの。と。跳。入。不。ぞ。城。名
 ま。ま。く。慌。忙。き。防。ぐ。手。立。も。あ。ら。ば。こ。そ。本。丸。當。て。逃。行
 と。大。將。故。田。悪。太。兵。衛。百。騎。を。う。り。の。名。と。も。つ。て。懸。命。の

豊原詔九條新五

廿六

地を退去すと踏止て防戦志々のが。進路の山の崩るる
 ごとく海の溢るる不齊一にして。西南方面より沸入を
 る不ぞ。こづう百騎の城名も悉く毆死して。至從僅不十
 五六騎を殘る。時小芥田が後段梁大獲といえるもの。
 悪六名清不向ふていふやう。浩る大軍と引受て。無謀の
 合戦一とぬちんより。本九へ入玉をさる。快く退
 去あるべしと洞のいま。終らざる不。越中守が從名來
 りて。本九へつがむよ。告ると。駭て。悪六名清左右と
 り。荒示とうち笑。今本九不引入。あは。要渡もつとも堅固
 あり。也え。不七日の保つべし。是ども。款不の浩る智勇の
 將あり。遂不の款を臨さるべし。是は。今本九へ逃入る不

おひての命を惜める鄙怯者よと。笑を々々。おと。眼筋を
 り。一足去らむ。歩死さると。逃入て。歩死さるとい。いづは
 が。勇士といたるべき。増てや。本九不籠るもの。ハ。皆山
 下の百姓不して。怯む。勇士ハ。大軍毆ぬ。念對をべき。款
 兵ハ。眼筋不ある。智のそ。あらむ。日本八歩の頭。飲る。秀
 吉と。款と。を。あ。む。バ。智勇とも。不。渠。不。ハ。及。む。む。今。秀。吉。が
 成。が。さ。き。む。一。も。あ。り。の。べ。し。是。ども。唯。死。さ。る。こ。と。ハ。渠
 が。仕。が。さ。き。所。あり。因。て。秀。吉。が。あ。り。が。さ。き。死。と。も。て。渠
 不。勝。ん。の。そ。と。戲。を。つ。つ。も。鞆。く。と。う。ち。笑。ひ。去。來。や。義。勇
 不。進。める。者。ハ。あ。は。茶。田。と。死。と。共。不。して。名。と。潔。ふ。流。布
 せ。ら。是。よ。と。い。ふ。より。早。く。馬。と。跳。ら。せ。茶。田。が。陣。へ。突。投

たる。その獲幣ハ虎のおとく籠の如く。兎と失えり。獅と
 小弁ひと烈然りやうぜんとして血戦ちけんを時とき不熊見ふくま戦中身せんちゆうのこゝろハ本丸ほんまる不
 退入ひきひきんと使つかと芥田あかたが方かたへをををを本丸ほんまる退入ひきひきのと告つる
 小悪おあく六兵衛むつべゑ流鉄石りゅうてつせきの如ごとき心こゝろ不なして一足ひとあしも退まくまと答こたへ
 へりとバ戦中守せんちゆうのまもも突つ不なると思おもひ戦死せんじの外あつり鬼おに亦また不なしと
 心こゝろと決くわして馬立うまたち整とと一ひと百人ひゃくにんををりりのて手勢てせうと率ひきひ蒲生はふぶが
 陣ぢんへ斬きて入いりち子こ愛あい万化ばんげの術じゆつと尽つく一ひと命いのちと惜おしまぬ戦いくさひ不な逆
 よる敵てきもあらざらババ颯さつと此こゝろ子こと斬き抜ぬて加か後ごが倭やまと不な割わり
 て入いり退ひつ捲まりつ接せ立たりり。佐さ念ぜん芥田あかた悪あく六兵衛むつべゑハ今日けふ
 と初はつの戦場せんじやう不な命いのちハ為なて惜おしりらぬど戦中守せんちゆうのまもハいいりりセ
 一ひと人ひと秋月あきづきが方かたへ落おちり。本丸ほんまるへ退入ひきひきり。且かつハ戦死せんじと

心こゝろと初はつせり。切きてハ死し初はつ一ひと會ありて回ま来きた深ふかく交まりと
 る素懐すくわいのちどおも述のとと思おもえど敵てきハ城しろ不な波なみり。突つ
 然ぜんん不なも返かへさん不なも。進退しんたい自由じゆうありりが。今いま一ひと戦いくさと
 激げき志し不なして退ひの方かたへ出いんものと再またび加か後ごが倭やまと不な突つ
 入り。愛あい唱なう憤ふん戦いくさををるちど不な一ひと手ての圍かこと突つ抜ぬて木き留ど谷やと
 い不な洞ほら穿くへ出いり。あらふハ本丸ほんまるより流なが下くだる溪河せきがあり
 て。樹木じゆもくもつとも繁さか茂もせり。此こゝろ夜よハ寅とらの下した刻ときとありて東あづ
 ハををあらし曉あけららちち不な露つゆ也なりと山さん中ちゆうハ程ほど圍かこふして。
 炬火くまありりと巴やまバ敵てきも自みづか方かたも。その色いろ分わかとむ時とき不な芥田あかた悪あく六
 兵衛むつべゑハ此こゝろ谷や間まふて一ひと息いき吹ふ死しくバ戦中守せんちゆうのまも不な退ひ入いんと思おも
 ふ所ところへ不な六騎むつきの告つと佐さがえて。あらふ不な来きたる一ひと將しやうあり。



岩石城破
 熊見
 坂田の士
 木間谷
 死期
 約



こをと死せしむ哉中守あり悪六兵衛いと嫉しむ下
 も戦死と初しりる先や末初の盃とせんまづ慈を
 よと声つけらる能見も彼方と恥と奪るふ芥田ハ血ふ
 染て六七騎の従士と従え岩が根不腰おけり突と
 馳奔て馬より跳卸けりなく共不交義の泪不咽び生
 前死後のことども強らひ従者不命けて洞水と二つの
 塊不留取らせ互ふことと飲合て今ハをや忘ふおもひ
 こととなく然らば共不愉快戦死をべいと塊と抛棄立
 揚る其所へ左右の山より加茂蒲生の徳軍勢沸がご
 とく不攻下り徐をまじと推提圍む中不も其田孫兵衛
 統治ハ悪六兵衛不弁て墓とば蒲生ヶ勇士源九兼成

々ハ哉中守不没合遂不二將と毆投りる不ぞ本丸の者
 共ハも禁村の百姓由え命と乞て退散しるはば蒲生
 氏々ハいふもさるあり秀務利長清正倂欵ふこと限り
 なく殿下へ斯と言状ありおのく以褒賞の賜宛不ぞ
 あづりりりり

絵本豊臣勲切記九編卷之八了

